

# お寺への感謝と 住民ら片付けに

熊本市・光輪寺



4月16日の本震で築100年の本堂が倒壊した熊本市東区の光輪寺（山田敬史住職）。被災した住民や子どもたち、住職の友人たちが、同寺のためにと次々集まり、励まし合いながら境内の片付けなどを行っている（写真）。

最初の地震があった14日夜。山田住職は、道端や駐車場に避難し毛布に包まる近所の人たちを見て、すぐさま本堂裏の保育園を開放した。最大70人が共同生活を送った。間仕切りもない園舎で、介助犬を連れた人や子連れの家族も一緒に雑魚寝。山田住職は「お互いに感謝を忘れずに」と声を掛け、「愚痴ってもしょうがない」と、夜は焚き火を囲みながら笑い合った。41歳の男性は「家族のようにあたたかく迎えてくれた。小さなめ事もなく、ほかでは望めない環境だったと思う。お寺はやっぱり心の依りどころ」と感謝を口にした。その思いから被災した住民が、本堂や庫裏の瓦の撤去な

## 地震の夜に保育園開放 70人生活

どを手伝いに集まっている。学校が休校中の地元の高校生たちが大挙して、瓦片の土のう詰めに力を貸して帰った日もあるという。そこに、近隣の僧侶や山田住職の友人らが加わっている。被災寺院の住職も多いが、ほぼ連日、顔を見せる人もいる。

隣家から避難している門徒の福永薫さん(50)は「どこから集まってくるの、というほどたくさんの方が来てくれた。住職の人柄もあるけど、日頃どれだけ縁を大切にされているかだと思う」と話す。山田住職は「仲のいいモンがちよこちよこ来て、手伝ってくれる。いつも誰か居てくれて、にぎやかですよ」と笑顔を絶やさない。そして、「私も皆さんに支えられてるから」と実感を込める。

今月には保育園再開の予定だが、「まだこの場所を必要としている人がいる。心情としては避難所を開けておきたいんだ」と人情味深い山田住職は苦悩をにじませた。